

平成 27 年度農研機構シンポジウム開催要領
北海道畑作営農システムの確立に向けた農業 ICT 研究の最前線

1. 趣旨

農研機構では、農業および食品産業の生産現場が直面する課題を速やかに解決するための研究開発を最優先課題として位置づけるとともに、得られた研究成果をいち早く普及に移すため、農業の技術普及組織および担い手と協同した農業研究の推進に取り組んでいます。「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業」（平成 25 年度補正予算）では、従来の限界を打破する生産体系への転換を進める革新的な技術体系を確立するための実証研究を推進しており、その中心技術の 1 つが、急速な進化を遂げている ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術)、RT (Robot Technology : ロボット技術) です。先進の技術は難解で理解しにくい側面もありますが、農業技術はその使い手である農業の担い手のためにあるものです。本シンポジウムでは、生産者、生産団体、普及組織の方々に向けて、最新の ICT 関連技術とはどのようなものなのか、その革新性、有用性をわかりやすく紹介いたします。

2. 開催日時 平成 27 年 12 月 9 日 (水) 13 : 15 ~ 16 : 50 (受付開始 12 : 30)

3. 開催場所 : 札幌エルプラザ 3 F ホール

(札幌市北区北 8 条西 3 丁目 札幌市男女共同参画センター Tel:011-728-1222)

4. 主催 : 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター

後援 : 北海道、北海道立総合研究機構農業研究本部、NPO 法人グリーンテクノバンク

5. 対象 : 生産者 (生産者団体を含む)、行政・普及関係者、関係研究者、関係団体・企業、消費者その他関心のある方

6. 参加料 : 無料

7. 参加定員 : 200 名

8. 議事次第

総合司会 : 農研機構 北海道農業研究センター 企画管理部長 勝田眞澄

(1) 開会挨拶 (13 : 15 ~ 13 : 20)

農研機構 北海道農業研究センター 所長 門脇光一

(2) シンポジウム解説 (13 : 20 ~ 13 : 25)

農研機構 北海道農業研究センター 研究調整役 川口健太郎

- (3) 基調講演 (13:25 ~ 13:50)
- 1) 農業機械化技術の歴史と ICT によるスマート農業の思想
農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター 理事 西村 洋
- (4) 講演
- 1) ICT はココがすごい
農研機構 北海道農業研究センター 大規模畑作研究領域長 平藤雅之
(13:50 ~ 14:10)
- (休憩 15分)
- 2) 日本の農業に役立つ ICT
- 座長：農研機構 北海道農業研究センター 畑作基盤研究領域長 森 元幸
座長からのご案内 (14:25 ~ 14:30)
- i) リモートセンシングを活用した小麦の収穫作業技術の開発と利用実績
農研機構 近畿中国四国農業研究センター 上席研究員 奥野林太郎
(14:30 ~ 14:50)
- ii) 鹿追町、土幌町における革新的技術実証事業で目指す畑作営農の将来像
農研機構 北海道農業研究センター 上席研究員 澁谷幸憲
(14:50 ~ 15:10)
- iii) 電子制御ユニット (ECU) と農業機械の通信標準化が生産現場にもたらすもの
農研機構 北海道農業研究センター 主任研究員 西脇健太郎
(15:10 ~ 15:30)
- iv) ドローン、無人ヘリ〜リモートセンシング技術を使いこなすには
農研機構 北海道農業研究センター 主任研究員 杉浦 綾
(15:30 ~ 15:50)
- (休憩 20分)
- (5) パネルディスカッション (16:10 ~ 16:45)
- 座長：農研機構 北海道農業研究センター 畑作基盤研究領域長 森 元幸
パネリスト：各講演者他
- (6) 閉会挨拶 (16:45 ~ 16:50)
- 農研機構 北海道農業研究センター 企画管理部長 勝田眞澄

【問合せ先】 〒082-0081 北海道河西郡芽室町新生南9-4
農研機構 北海道農業研究センター 大規模畑作研究領域 澁谷幸憲
Tel. 0155-62-9280 Fax. 0155-61-2127
E-mail : kita-semi@affrc.go.jp